

## ■令和元年7月23日 文教くらし委員会県内調査

### 1 県立奈高等学校（奈良市法蓮町）

【調査目的】耐震化完了までの安全対策等について

【調査概要】奈良高等学校の概要、耐震化の状況について説明を受けた後、校内を見学。

【奈良高等学校の概要について】

- ・大正13年設置の県立奈良中学校を前身として95年の歴史を持つ。
- ・中庭のプラトンとアリストテレスの像は、奈良高等学校の自由な校風の象徴。
- ・学校の特色について、3つの柱がある。①部活動や学校行事等が生徒主導、生徒会主体で実施していること。②単位制で多様な選択科目を用意し、生徒が主体的に科目選択ができる教育課程になっていること。③生徒の学びが探究的、体験的になるような授業を積極的に取り入れていること。
- ・平成31年3月の進学状況は、京都大学、大阪大学、神戸大学を合わせて126名が合格。

＜部活動について＞

- ・1年生では90%以上が部活動に参加。
- ・体育系クラブは、アーチェリー部は今年度も全国大会に出場。設置から6年目のダンス部など若い部もある。
- ・文化系クラブは、映画の影響もあり小倉百人一首かるた部は20名の大所帯。放送部は今年度のNHKの全国放送コンテストに出場。囲碁将棋部は大変強い。

＜スーパーサイエンスハイスクールについて＞

- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けてから16年目を迎えるところ。科学技術系グローバルリーダーを育成する。
- ・SSH関係の行事として、シンガポール海外研修を実施。3年生34名がアジアの大学ランキング第1位のシンガポール国立大学を訪問し、最先端の研究施設の見学や講義を受講。
- ・SSHサイエンスツアーを企画。今年度は東京大学総合研究博物館等を訪問予定。
- ・ロボット講習会を毎年数回開催。中学生にも対象を広げている。毎年定員以上の募集があり大変好評。
- ・SSHに指定されていることもあり科学技術系の部活が充実しているのが特徴。ロボット研究会は昨年度世界大会に出場し第6位に入賞。

【耐震化について】

＜城内学舎について＞

- ・法蓮学舎の仮設工事が完了するまでの間、1・2年生が一時的に旧城内高等学校の校舎を利用。
- ・放課後、クラブ活動のために両学舎の間をシャトルバスが運行。
- ・この9月からは3学年揃って法蓮学舎で学習する予定。
- ・I<sub>s</sub>値は0.56から0.72ぐらい。屋内運動場や格技場は新耐震基準を満たしている。職員室の隣の管理特別教室棟のI<sub>s</sub>値は0.34で、I<sub>s</sub>値の低い北側ゾーンの特別教室は使用しない。南側ゾーンにおいても負荷が掛かっている1階柱については応急補強を実施。
- ・城内学舎は2年前まで郡山高等学校が使用していたが、この校舎を利用することが決定した時点では建物内部は埃だらけだったが、ハウスクリーニングを行い、きれいな状態で使えるようになった。
- ・4月当初、実際に使用していく中で、課題や必要が出てきた場合には、その都度、県教育委員会の支援により対応してきた。
- ・奈良高等学校はSSHの指定を受けており、理科等の実験を大変重視しているため、城内学舎では家庭科調理室を生物化学実験室に変更している。2学期に法蓮学舎に戻

ってきたときにはしっかりと調理実習を行う予定。

- ・エアコンは6月中旬までには全ての教室に設置を完了。部活動は放課後にシャトルバスで法蓮学舎から城内学舎に移動、またその逆もあるほか、近隣の体育施設を利用してクラブ活動を実施している。

#### <法蓮学舎について>

- ・I s 値0.3未満になっている北館、渡り廊下、体育館は現在使用停止。I s 値0.3以上を満たす本館は応急補強工事を実施中。
- ・仮設校舎は、東グラウンドに2棟、西グラウンドに4棟の計6棟を設置予定。仮設体育館は、東グラウンド北側のテニスコートに設置予定。
- ・東グラウンドの仮設校舎の2棟は完成しており、その内の1棟は6月から利用している。残りの1棟と建設中の西グラウンドの4棟は9月から利用開始予定。
- ・西グラウンドの仮設校舎は、理科実験室、家庭科実習室などの特別教室、1・2年生の普通教室と一部の3年生の普通教室として利用する予定。
- ・3年生は科目選択が多く、教室間移動がたくさんあるので、教室間移動の距離をできるだけ少なくするために、9月には現在使用している東グラウンドの仮設校舎から他の3年生が使っている新館に近い西グラウンドの仮設校舎に移り、3年生の教室をできるだけ一カ所に集める予定。
- ・仮設体育館については現在基本・実施設計を行っており、12月に完成の予定。仮設体育館の広さは、バレーボール、バスケットボールのコートが1面、バドミントンが2面の広さが確保された設計となっている。詳細については県教育委員会事務局と調整しながら進めていきたい。テニスコートに設置するため、2つのテニス部が残ったコート一面と鴻池のテニスコートを利用する方向で進めている。その他のクラブ活動については城内学舎の体育施設を引き続き使用できるよう県教育委員会において調整している。
- ・昨年度、台風の影響で裏山の斜面が崩落した箇所があり復旧工事が続いているので西グラウンドの仮設校舎から仮設体育館への移動は工事終了までは最短ルートは使えない。

#### 【質疑応答】

- Q 奈良高等学校の耐震化問題については、県議会ができることは限られているが、生徒や保護者が求めていることがあれば聞かせてほしい。
- A 課題については県教育委員会と相談しながら対応してきた。現時点で大きな課題はないと思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。
- Q 教頭は城内学舎ができたから2人体制になったのか。
- A 元々2人体制であったが、学舎が2カ所になったので役割分担している。
- Q 保護者会から要望等は出ていないのか。
- A 保護者会からの新たな要望はない。
- Q 学舎が2カ所になり、体育の授業やクラブ活動等と一緒にできないことをどう思っているのか。
- A 元々大きなグラウンドや体育館がないため、これまでからクラブ間で時間帯、曜日等で調整してきた。現在、周辺施設も借りて工夫をしているが、問題は起きていない。
- Q 耐震化等で生徒等にアンケートを取るなど、生徒の生の声を聞いているか。
- A アンケート等は実施していないが、生徒から聞いている範囲では、移動時間も含めて環境が変わることによって気分転換になっていると聞いている。



## 2 県立大和中央高等学校（大和郡山市筒井町）

【調査目的】不登校編入などの実態について

【調査概要】大和中央高等学校の概要、不登校編入などの実態について説明

【大和中央高等学校の概要について】

- ・ 定時制・通信制の2課程を置く高等学校として、平成20年4月に開校。新たに設置された三部制の定時制課程に奈良高等学校の定時制課程を統合するとともに、通信制課程を奈良高等学校から移設した。
- ・ 2年前の高等学校創立10周年に生徒がマスコットキャラクターをデザイン。
- ・ 生徒の支援として、教員のほかに学校支援員などが配置されており、生徒の相談や授業の補助などを行っている。またスクールカウンセラーも配置されている。
- ・ 制服がないので学習にふさわしい服装、身だしなみで登校する。チャイムが鳴らないので時計を見て自分で行動する。

<普通科定時制課程について>

- ・ 学年の区分がないため留年がなく、6年以内で74単位以上を修得すれば卒業。科目により前歴校での修得単位や高卒認定試験で取得した単位を加えることができる。
- ・ 少人数制のクラス、チューター制により、より一人ひとりの生徒との関わりを強く持って手厚い指導をしている。目的に応じて他部履修が可能。
- ・ 3つの部に分かれて、9時から21時まで12時限の授業を実施。
- ・ I部は午前の授業が主で、3年間での卒業を目指す。II部は3限目から6限目で、4年間での卒業を目標にゆっくり学習を進める。III部は夜間の授業が主で、4年間での卒業を目標に、働きながら学ぶこともできる。
- ・ 2学期制で、9月までは前期、10月からは後期。定期考査は年4回。
- ・ SHRはなく、毎週水曜日にHR。
- ・ 在籍生徒数は、I部が207人、II部が193人、III部が15人の計415人。年齢はほとんどが10歳代で、50歳代も1人在籍。
- ・ 1年次生の中学校時代の不登校率（年間欠席30日以上）は、H29年度が54%、H30年度が52%、H31年度が68%。
- ・ 進路ガイダンスでは、全校生徒を対象に調理、美容、医療、保育、自動車など希望する分野の職業体験を行う。
- ・ 卒業後の進路は、就職する生徒が半分程度。

<普通科通信制課程について>

- ・ 学年の区分がないため留年がなく、8年以内で学習活動74単位以上、特別活動30単位以上を修得すれば卒業。科目により前歴校での修得単位や高卒認定試験で取得した単位を加えることができる。
- ・ レポートの作成・添削指導と週に一度のスクーリング（面接指導）を中心として単位を修得していく。
- ・ 授業は1時限から7時限（9時から16時25分）。定期テストは年2回で、レポー

ト作成とスクーリングを行っていないと受けられない。原則4年修業だが3年修業も可能。

- ・在籍生徒は、10歳代が多いが他の年代も少しずつ在籍しており、70歳ぐらいの生徒が生徒会のボランティア活動などで活躍している。
- ・1年次生の中学校時代の不登校率（年間欠席30日以上）は、H29年度が93%、H30年度が92%、H31年度が80%。
- ・学習は基本的に自学自習であり、自分で学び、自分で考える。学校へは週2回しか来ないので、自宅で80%、学校で20%の学習を行う。教科書を読んで理解する力が必要。
- ・なかなか勉強が進まない生徒は、生徒相談日やスクーリング後に質問して勉強に励んでいる。
- ・卒業後の進路は、仕事を持ちながら学校に通われている方々が、そのまま引き続き仕事を継続する場合が一定程度あり、H30年度は進学、就職、仕事を継続がそれぞれ3割程度。

#### 【県立大和中央高等学校における不登校編入・転入学等の実態について】

##### <転学の状況について>

- ・県教育委員会の要綱に基づき実施。

##### ○定時制課程

- ・転学の理由は一家転住によるもののほかに、教育的配慮を必要とする特別の事情を有するものとして、家庭内DVによる緊急避難、前籍校でのいじめに端を発するものなどがあるが、不登校のみを理由とする転学は認めていない。
- ・転学試験は前期末（9月）と年度末（3月）。
- ・普通科高等学校であるため、本校の教育課程表にない前籍校の専門教科の修得単位は原則として単位として認められない。

##### ○通信制課程

- ・転学の理由は一家転住によるもののほかに、教育的配慮を必要とする特別の事情を有するものとして、病気等で毎日通学が困難な生徒、家庭内DVによる緊急避難、前籍校でのいじめに端を発するものなどがあるが、不登校のみを理由とする転学は認めていない。
- ・転学試験は前期末（8月）と年度末（3月）。
- ・専門教科も含め、前籍校の修得単位は認めている。
- ・特に今年度、5月連休明けから転学についての保護者からの問い合わせが多い。

##### <編入学の状況について>

- ・一旦は他校を退学したものの、やはり高等学校で学びたい、高等学校を卒業したいと思う方が受験する。

##### ○定時制課程

- ・編入学試験は年度末（3月）。
- ・普通科高等学校であるため、本校の教育課程表にない前籍校の専門教科の修得単位は原則として単位として認められない。
- ・希望者は10歳代後半が多いが、20歳代以上の方もいる。

##### ○通信制課程

- ・編入学試験は年度末（3月）。
- ・専門教科も含め、前籍校の修得単位は認めている。
- ・希望者は10歳代後半から20歳代前半くらいが多いが少数ながら30歳代の方もいる。

<入学・卒業者数等について>

○定時制課程

- ・H30年度 選抜による入学141名、転学2名、編入学4名、卒業生72名
- ・H31年度 選抜による入学151名、転学0名、編入学9名

○通信制課程

- ・H30年度 選抜による入学70名、転学3名、編入学21名、卒業生45名
- ・H31年度 選抜による入学77名、転学3名、編入学15名

【質疑応答】

Q 2学期制のメリットは何か。

A 定期試験の数が少なく単位が修得しやすい。

Q 三部制のため授業は9時から21時までと長いですが、教員の勤務はどのようになっているのか。

A I部とII部の授業を担当する教員と、III部の夜間を担当する教員の2つに分けて勤務している。

Q 退学者はどれぐらいいるのか。

A パーセンテージはすぐには出ないがかなり多い。不登校の生徒やアルバイトをしていてそちらが主になる生徒など、家族と相談されて退学されている。

Q 芝生の管理はどうしているのか。

A 基本的には教員が行っている。

Q 発達障害の子どもがふえているが、そういった生徒も受験されているのか。

A 受験されていると思われる。



### 3 県立二階堂養護学校（天理市庵治町）

【調査目的】施設整備の現状について

【調査概要】二階堂養護学校の概要について説明を受けた後、学校内を見学

【二階堂養護学校の概要について】

- ・昭和62年4月に知的障害養護教育学校として開校し、今年度で33年目を迎える。
- ・平成12年に生徒数の増加に伴い新館（6教室）を増築。
- ・通学区域の範囲は広く、大和郡山市、天理市、桜井市、磯城郡、宇陀市、宇陀郡、山辺郡、奈良市（都祁地区）。
- ・スクールバスを5台配置しているが、自宅から単独で通学する生徒も数名いる。最寄り駅は結崎駅で徒歩約25分。
- ・今年度の生徒は、小学部が50人、中学部が41人、高等部が83人の計174人。



- ・児童生徒数は、平成24年度が243名で過去最大となり、以降は毎年10人程度減少しており平成31年度は174名となっている。人数が多かったときは、特別教室を普通教室に転用していたが、現在は人数が減ってきており転用する教室も少なくなっている。
- ・教育目標は、「明るく元気な児童生徒を育成する」「仲良く助け合う児童生徒を育成する」「たくましく自ら未来を切り開く児童生徒を育成する」
- ・毎日、バスを見送った後、すぐに円状になって円会議を実施し、その日の出来事の情報共有を行っている。
- ・平成30年度は、二階堂小学校、田原本北中学校、天理教校学園高等学校と交流及び共同学習を実施。
- ・近隣のスーパーでの販売学習、イオンモール等での仕事体験（清掃活動）、道の駅「レスティ唐古・鍵」で製品販売を実施。

#### <施設設備の状況>

- ・33年前の開校当時は、最新の施設として県外からの視察も多数あった。
- ・運動場は平成22年度の県事業により芝生化。運動場で毎朝走ることが日課。
- ・水治療室（お風呂）では、自分で体や頭を洗えない児童生徒が、宿泊学習の前に訓練を行う。
- ・プールは25メートルのプールが3コースある。競技種目として水泳を楽しんでいる生徒もいる。夏休み中にも15日間プールを開けている。
- ・木工室、窯業室などがあり、職業につながる訓練を行っている。昨年、新しい電気陶芸窯に更新した。
- ・田畑があり、ジャガイモ、茄子、ピーマンなどの作物をつくって、収穫して、地域の方々に販売する活動を行っている。
- ・体育館はバスケットボールコートが1面あり、体育の授業や文化祭で使用している。
- ・現在は車いすを使用している生徒はいないが、新館にはエレベーターがある。てんかんなどによりストレッチャーで2階から運ぶ必要があるときなど、エレベーターは非常に活用できる。危険防止のため暗証番号で操作をしている。

#### 【質疑応答】

Q 二階堂養護学校に、なかなか入学できないという話があるが、こういった制度になっているのか。

A インクルーシブ教育が推進されており、可能な限り地域の学校に就学する方向でというのは国も県も同じ考え方。就学の判断は市町村教育委員会が行っている。

